



軽快にゴロをさばく八学光星の徳田大沙(2日)、甲子園

甲子園の感触確認

光星 現地入り後初の練習

第98回全国高校野球選手権に青森県代表として出場する八学光星は2日、兵庫県西宮市の甲子園球場で練習に臨み、グラウンドの感触を確かめた。

現地入りしてから初の練習。仲井宗基監督が「ノック」を務め、午後4時半から30分間を準備に割いた。

各ポジションに就いたナインは、アウトカウントや走者の状況によってプレーを判断、軽快なグラブさばきを見せた。投手陣はマウンドに上がり、軽めに投球した。

奥村幸太主将は「長時間移動してからの練習だったが、みんな良く動いていたと思う」とした上で、「甲子園で練習し、本番が近づいていると実感した」と気持ちが高ぶっている様子。仲井監督は「(今春の)センバツに出していないメン

⑱ 辻優大(3年)＝大阪・庭窪中出

甲子園だよ!

センバツに続き二度目となる甲子園での練習だったが、やはり雰囲気は独特でした。距離感がイメージと違い、フ



やはり雰囲気は独特

「エンス浴びは守りづらい、打球を捕りづらいです。ただ、二度目で慣れてきたせいなのか、センバツの時よりは、少し余裕を持って守ることができたと思います。直前まで夜間のバス移動だったので少し疲れはありましたが、何よりも再び甲子園で練習できたのがうれしいです。両親も練習から見に来てくれたので、出番があったら、いいプレーができるよう頑張ります。」

バーもいるので、少しでもグラウンドになじんでくればいい」と話していた。1日に八戸市を出発したナインは、2日未明に大阪府吹田市の宿舎に入り、午前中は休養に充てた。3日は午前中の2時間、兵庫県尼崎市の尼崎ベイコム球場で練習する予定。

(林泰輔)

初の「聖地」に緊張

○：八学光星で今春のセンバツを経験していないメンバーにとって、この日は甲子園での初のプレー。外野が広いとされる甲子園だが、中堅手の花岡小次郎は「フェンスまでの距離が意外と短い。イメージとの違いに戸惑いの表情を浮かべた。」

一方、投球練習に臨んだ左腕の戸田将史は「マウンドが軟らかくて、思ったよりも投げやすかった」と好感触。初めての「聖地」に「緊張した」というが、「直球も変化球も切れているし、絶好調。早くここで投げたい」と出番が待ち切れない様子だった。

「しさをにじませながら、足が遅いので、もっと練習を積んで速くなりたい」と課題を挙げた2年生。チームの活躍を期待しつつ、「来年は選手として絶対にここに戻ってくる」と既に来夏を見据えていた。